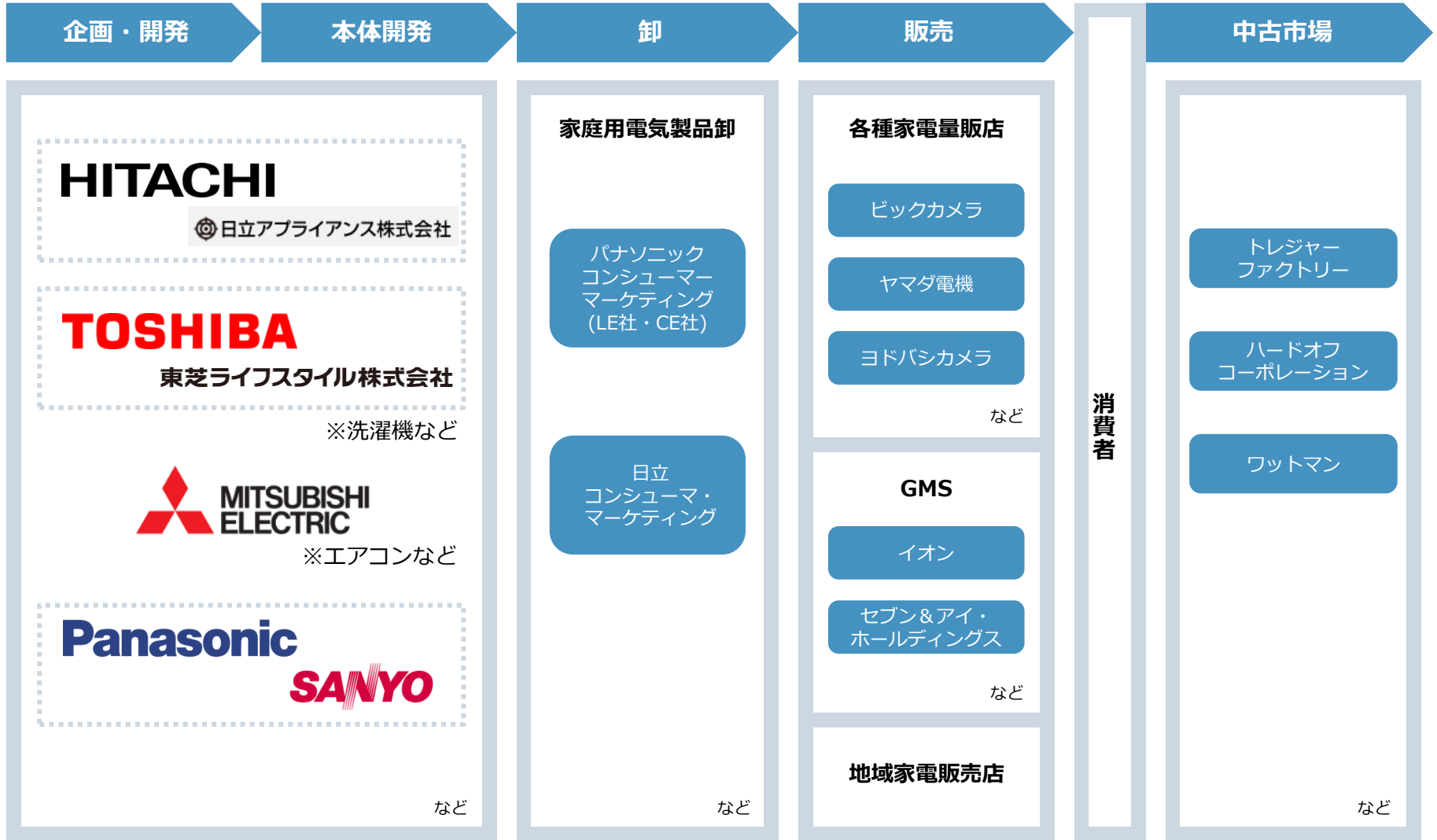




総合電機 サンプルレポート

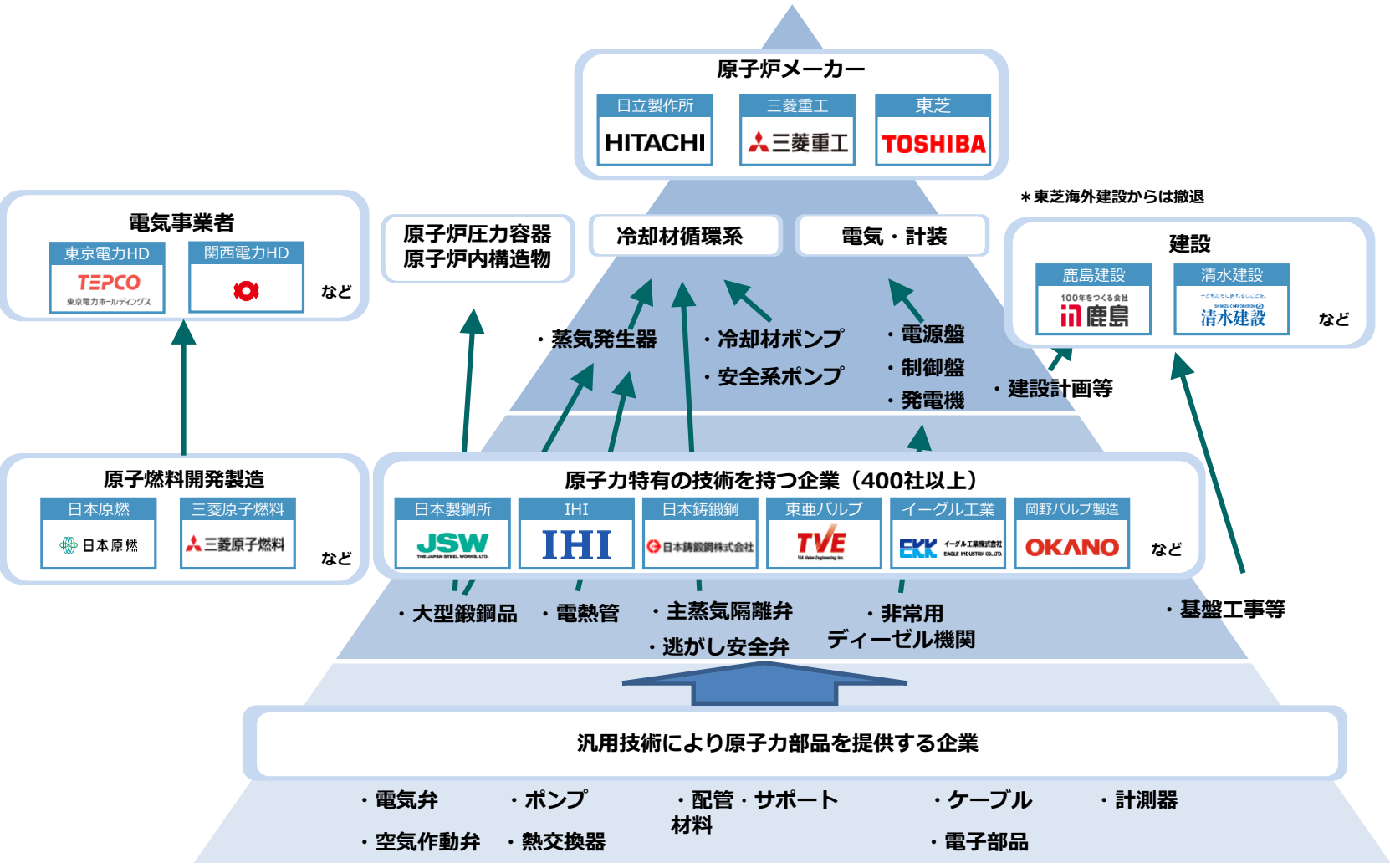
業界概要

バリューチェーン(白物家電)



業界地図

原子力発電のサプライチェーン



「総合資源エネルギー調査会 原子力小委員会第1回会合 参考資料1」より日経作成

市場環境

市場規模(黒物家電)

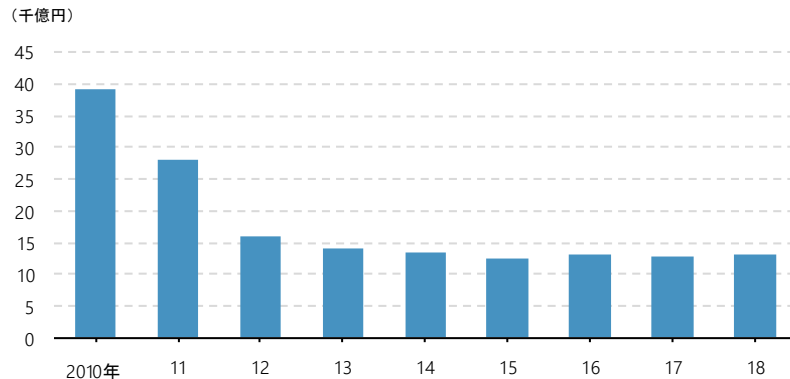
2018年の出荷額、低水準ながらプラス

黒物家電の2018年の出荷額は1兆3224億円と2年ぶりに増加に転じたものの、ここ5年ほど1兆3000億円程度の水準が続く。地デジ化やエコポイントで市場が盛り上がった10年の3兆8999億円には遠く及ばず、2兆円前後を推移した90年代の背中もまだみえないのが現状だ。

音楽や映像などの「娯楽」を楽しむ機器として、様々な機能を取り込むスマートフォン(スマホ)が台頭、従来の成長戦略が描きにくくなった。各社はテレビやオーディオなどの機器では高付加価値商品を訴求する戦略を推進し、利益確保を目指している。

黒物家電ではテレビで4K・8Kの本放送が始まったが、市場全体をけん引するような起爆剤になるかは不透明だ。エアコン出荷などの関係性が深い新築着工も中長期で大幅には伸びそうにない。20年の東京五輪など買い替え需要が見込める要因もあるが、市場は「晴天」といえる状況にはない

黒物家電の出荷額の推移



電子情報技術産業協会 (JEITA)

エアコンがフル生産、猛暑が潤す

2018年の出荷額で主役は白物家電がルームエアコン、黒物家電はテレビだった。とりわけルームエアコンは全国的な猛暑で、各社フル生産が続いた。テレビは4Kが需要を底上げ、買い替え需要で底堅い動きを見せたが、19年は不透明感も漂う。

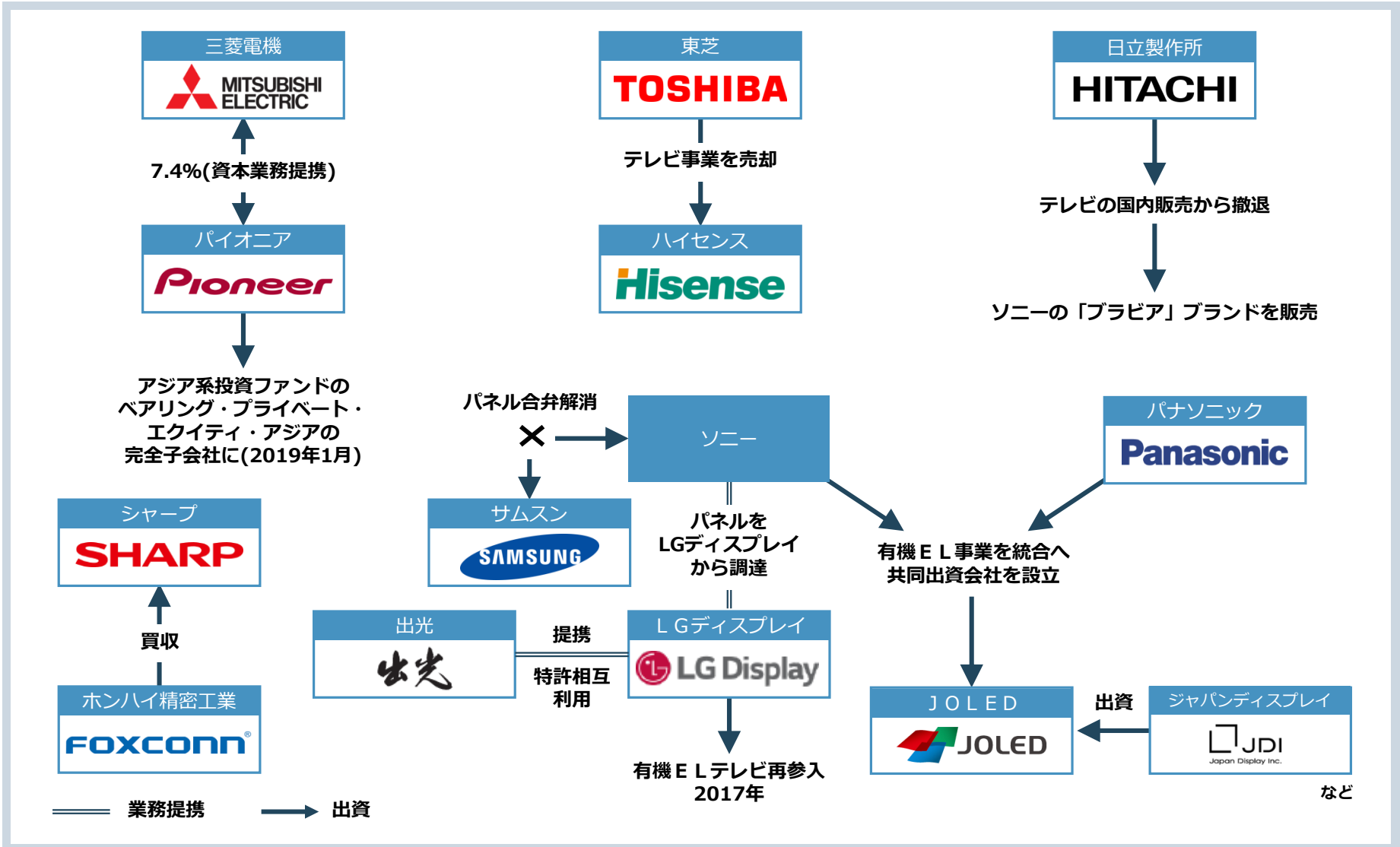
2018年は白物家電がエアコン、黒物家電はテレビがけん引

品目	出荷台数	ポイント
ルームエアコン	965万台 (前年比+8.1%)	猛暑で過去最高の出荷に
洗濯機	464万台 (同+0.8%)	まとめ洗いなどのニーズが高まり、大容量に
掃除機	495万台 (同-0.9%)	数量減となるもスティック型など普及で出荷額は横ばい
テレビ	450万台 (同+4.1%)	4kが需要を底上げ。買い替えに商機

日本電機工業会 (J E M A) の統計などをもとに日経作成

競合環境

業界地図(AV・デジタル家電)



本資料について

本資料に掲載された情報は、信頼できるとされる情報源から、本資料の作成時点までに入手された各種情報・データに基づくものですが、その正確性及び完全性に関して、日本経済新聞社（以下、日経）、情報提供者は、一切の責任を負うものではありません。本資料の利用によって生じた直接的・間接的な損害については、その内容・態様を問わず、日経および情報提供者は、一切の責任を負うものではありません。本資料の情報は、有価証券への投資その他の取引の勧誘を目的としたものではなく、また、有価証券の価値等または金融商品の価値等の分析に基づく投資判断に関する助言を行うことを目的としたものでもありません。本資料のいかなる部分についても、一切の権利は、日経および情報提供者に帰属しており、方法の如何、有償無償を問わず、無断で第三者へ複製物を提供したり、転送等を行ったりしないようにお願いいたします。